



雪崩・地すべり 研究センターたより

季刊・第61号
2012. 6月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・今年の地すべりと雪崩の発生状況 ・トピックス ・平成24年度の研究課題
・転入者あいさつ ・平成24年度メンバー ・ニュートンのリンゴの木

今年の地すべりと雪崩の発生状況

1. 新潟県、長野県の融雪地すべり発生状況

図-1には、新潟県と長野県における過去10年間の1～4月の地すべり発生件数を示しました。H24年の1～4月の地すべり発生件数は新潟県16件、長野県6件であり、過去10年間では新潟県が7番目、長野県が3番目の多さとなっています。また、発生時期は両県とも4月が一番多い月となっています。なお、今冬は5月でも中山間地に積雪が残っていましたので、5月に新潟県では6件、長野県では1件の融雪地すべりが発生しました。

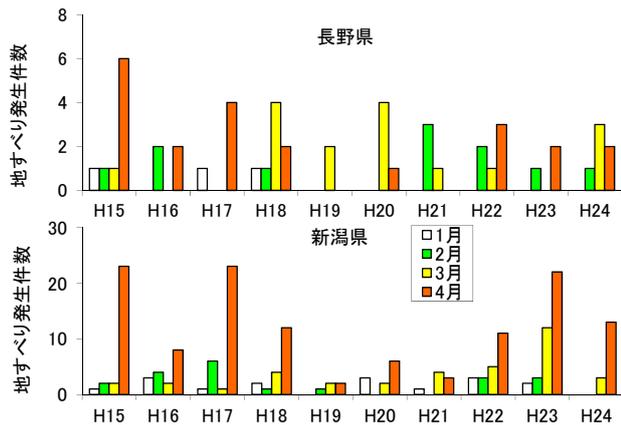


図-1 1～4月の地すべり発生件数の推移

(新潟県、長野県砂防課調べ)

2. 今年度の雪崩の発生状況

今冬は冬型の気圧配置が強く寒気の影響を受けやすかったため気温が低く、日本海側では度々大雪となりました。しかし、表-1に示すように人的被害のあった雪崩は例年と比べて多くはありませんでした。一方、東北や北陸では度々雪崩による通行止めや交通規制が発生しました。滋賀県では、一時的な暖気により2月に湿雪雪崩が発生し、国道が一時的に通行止めになりました。

表-1 2011-12年冬期の雪崩災害・事故発生状況

No.	発生日	発生場所	対象	被災状況
1	1月28日	長野県白馬村犬川上流	山スキー	1名死亡
2	2月1日	秋田県仙北市玉川温泉	湯治	3名死亡
3	3月11日	新潟県十日町市小出	集落	1名負傷
4	3月13日	福島県北塩原村猫魔ヶ岳	山スキー	2名負傷
5	3月14日	群馬県みなかみ町谷川岳 天神尾根	山スキー	1名死亡
6	3月16日	群馬県みなかみ町谷川岳 天神尾根	山スノーボード	1名死亡

(新聞記事等から人的被害のあったものを整理)

トピックス

■融雪地すべり災害の技術支援

4月12日に、新潟県糸魚川市能生区物出（ものい）で融雪地すべりが発生し、泥濘化した土砂が沢を流下しました。また、4月22日に、新潟県三条市牛野尾で融雪地すべりが発生し、泥濘化した土砂が沢を流下して車庫2棟に土砂が流入する被害が出ました。この他、5月21日に新潟県上越市板倉区国川（こくがわ）地すべり（3月7日発生）の避難勧告一部解除のための調査が、新潟大学、北陸地方整備局、新潟県、上越市、当センターの合同で実施されました。国川地すべりについては、6月28日にも避難勧告の一部解除で残された部分の避難解除のための調査が、新潟県、上越市、当センターの合同で実施されました。当センターでは、新潟県の依頼により野呂所長他が各地すべり災害の技術支援をしました。

これらの地すべり災害に対しては、社会的関心が高く、当センターへの数多くのマスコミ関係の取材や報道がありました。

■国際会議

5月28日～6月1日に国際雪氷学会主催 季節積雪と氷に関する国際シンポジウムが、フィンランド共和国ラハティで



写真-1 物出地すべり



写真-2 牛野尾地すべり



写真-3 国川地すべり



開催されました。当センターからは、池田が「中部山岳地における雪崩に関する積雪の地域特性」を発表しました。

■学会研究発表会

4月25日に石川県加賀市で日本雪氷学会北信越支部研究発表会、5月18～19日に新潟県湯沢町でアバランチ・ミーティング、5月23～25日に高知市で砂防学会研究発表会が、それぞれ開催されました。当センターからは、表2に示す研究発表を行いました。

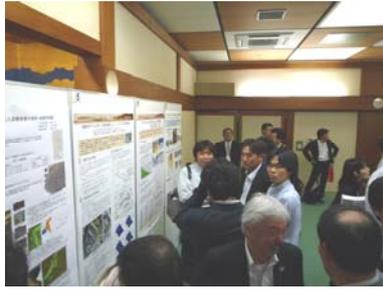


写真-4 砂防学会研究発表会

表2 研究発表一覧表

学会名	タイトル	発表者
2012年度 日本雪氷学会北信越支部研究発表会	水の浸透に着目した斜面と平地の積雪層構造の比較:2011-12年冬期観測結果	池田慎二
	多層積雪への降水浸透と積雪硬度の変化	伊東靖彦
	日本で観測された雪崩破断面の積雪構造について	池田慎二
アバランチ・ミーティング	玉川温泉(120201)雪崩事故	池田慎二
	中部山岳地における広域積雪調査-08～12冬期調査結果-	池田慎二
平成24年度 砂防学会研究発表会	平成24年2月1日に発生した玉川温泉雪崩災害	野呂智之
	多層構造をもった積雪に対する人口降雨実験	伊東靖彦
	2011年4月に白馬大雪渓で発生した大規模雪崩	池田慎二
	平成23年東北地方太平洋沖地震で発生した流動化地すべりの地形と地震波載荷試験	丸山清輝
	平成16年中越地震によって発生した地すべりの移動距離と斜面形状の関係	中村 明

■雪崩対策技術支援に対する感謝状

6月22日に、新潟市で平成23年度豪雪災害等感謝状贈呈式が開催されました。当センターでは、雪崩調査(地上・上空)の実施などの技術支援に対して、新潟県知事から感謝状をいただきました。



■防災講演会

6月25日に、新潟市で平成24年度土砂災害防止月間防災講演会が、NPO法人新潟県砂防ボランティア協会ほかの共催で開催されました。この講演会では、野呂所長が、「今春の上越地方の地すべり災害について—国川地すべりを中心に—」と題して講演をしました。

平成24年度の研究課題

雪崩部門

- ①冬期の降雨等に伴う雪崩災害の危険度評価技術に関する研究(プロジェクト研究H23～26)
- ②雪崩対策施設の管理技術の向上に関する研究(基盤研究H24～27)
- ③数値シミュレーションを用いた合理的な雪崩防護施設設計諸元の設定手法に関する研究(基盤研究H24～26)

地すべり部門

- ①流動化する地すべりの発生箇所・到達範囲の予測に関する研究(プロジェクト研究H23～27)

転入者あいさつ

4月から交流研究員としてお世話になります畠田和弘(はただかずひろ)と申します。これまで、全国各地の地すべり・砂防の調査・解析・設計に携わってきました。これまでの経験を生かした研究ができればと考えております。皆さまのご指導を仰ぎ取り組んでまいります。



平成24年度メンバー

- 所長 野呂智之
- 総括主任研究員 丸山清輝
- 主任研究員 伊東靖彦
- 専門研究員 池田慎二
- 専門研究員 木村 諒
- 交流研究員 畠田和弘
- 非常勤職員 富里加代子
- 非常勤職員 近江ひかる
- 非常勤職員 田中秀子



ニュートンのリンゴの木

写真は、6月14日の状況です。今冬の当センターにおける最大積雪深は、1月31日の313cmでした。この積雪のため、大きな枝が折れる被害が出ました。



このためか、花は折れた枝で咲きましたが、損傷のなかった枝ではほとんど咲きませんでした。写真は、折れた枝を処置するために枝の整枝をした後のものです。今年も、秋の収穫は期待できないようです。

雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載してありますので、ご覧下さい。

発行:独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
 土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター 
 住所:〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8
 TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL:http://www.pwri.go.jp
 掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。